

混沌とした中から

混沌とした世界にどっぷり浸かって (10)

仕事としていろいろなこともやってきましたが、画像を中心にしていた後も時代が「AX」から「DOS/V」に移った頃、その頃では最先端の「apricot」も扱いました。面白かったのはマニュアルがCD-ROMでapricotの本社から供給されていたのですが、その中にインターフェースのピン配置の説明があったのです。実はその当時のapricot XEN-LS IIにはRS232-Cのポートが1つしかついていなかった（それも25ピンの）のですが、マニュアルを見ると2ポート分入っていることが書かれていたのです。実際そのCD-ROMには変換アダプタがオプションとなっていたのですが、何の必要があったのか作ったりしました。

それで転勤となり営業となるのですが、あまり営業らしくはなかったようで、展示会やフェアで展示用の自動説明用のムービーを作ったり、SEと混ざってインストールの手伝いをしたりしていました。

さて、これまでのことをいろいろ書いてきてみましたが、もうすでに10回、5ヶ月となりますので、これまでの個人もちのパソコンを並べてみることにします。

- ① 最初は、日立のH68-TRのワンボードです。ワンボードですが、ビデオボードやキーボードを追加することによって、パソコンぽくはなっていたのですが、あまり使った記憶はないです。
- ② 結婚のドサクサに買ったFM-8がまともなパソコンの初めです。本体だけから始まり、ディスプレイ、FDD、プリンタと買い進んでフルセットとなったのですが、使った覚えは会社の設計、試験の思い出が強く、ワープロはなかったような気がします。ただ、BASICの勉強には役立つような紀がします。
- ③ それからやはりNECのほうがよかったと思ったのかPC9801VX21となります。16ビットの80286が搭載され、しばらくは大丈夫だろうと思ったようなのですが、使うのは、ワープロだったり、CADだったり、この頃になってもあまりゲームで遊ぶということがなかったので仕事でばっかりです。ただこのパソコン、親父のボケ防止のためのゲームパソコンとしてだいぶ長い間使っていたのですが、いかんせんHDDの無い物だったため、FDDが壊れて（最終的には内蔵の2台とも）しまつて廃棄されました。
- ④ 次がDOS/Vとなるのですが、その最初はプロサイドのパソコンです。パソコンのメーカー品からショップのものが出始めた頃で、80486DX4のCPUで大変頑丈なケース（ケースのふた部分だけで1kg以上あるのですから）だったものです。このパソコンもPC9801と同様最後は親父のゲームパソコン(2代目)でした。
- ⑤ PentiumでWindows3.1と95の端境期にかかったのがapricotLS550です。売っていたこともあり、自社製品のビジネスユースを買ったのですが、この後しばらくしてMS540が出たのにはちょっと……。このパソコンは某所へ売り渡した(新しいものとの物々交換)ので、もしかしたらまだ現役かもしれません。
- ⑥ Pentium IIになって時代の波に乗って作ったのが自作のパソコンです。自作なのですが、ビデオカードやサウンドカードに回すお金がなかったため、ホワイトボックスのものなど安いものになってしまいました。電源を入れておくとそのうちに音がしなくなり、ツールバーのサウンドのアイコンもなくなってしまうという変わった症状が出たものです。これはまだ現役で、Linuxをいれ、サーバとし

てホームページ公開用として利用したり(常時ではないのですが)しています。

- ⑦ 最後が現在のパソコンで、自作でもよかったのですが、自作よりショップパソコンが安いということで、マウスコンピュータのAV対応パソコンです。CPUはPentium4の3GHz、メモリ1GB、HDD120GBでハードウェアによるビデオキャプチャが可能なボードを入れ、昔のハンディのビデオテープをDVD化するのに利用しています。ビデオテープも18年もすると劣化が激しいものです。

ということで現在まで7台のパソコンをじぶんではつかってきましたし、今家には5台のパソコンがあり、3台無線LANで接続されている状態です。考えてみるとちょうどコンピュータの創世記が大学の入学とほぼ時代を一緒にしたこともあり、どっぷり使ってきたのがよくわかります。最初の頃はボードの設計まで手を出しそうなこともありますが、ほとんどソフトの開発と利用にすごしてきたような気がします。ここに来てまたプログラムの開発(VBやCGI、HTML、JavaScriptなど)をしなければならなくなるとは思ってもいみませんでした。・・・ (連載終了)

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 3月14日号

特集 企業サイトユーザビリティランキング2005

→サイトのユーザビリティというのを知っていますか。企業のホームページがいかにか使いやすいものになっているかを表すものがユーザビリティです。基本構造がわかりやすく適切なタイトルが付けられているか、操作性がよいか、プラグインソフトがなくても画像などの内容が把握できるようになっているかなどに加えて、時代の流れに沿った個人情報保護法に対応した構造になっているかなどでランキングしています。他にアクセシビリティとって、年齢や身体条件、利用環境に関係なく十分な情報が得られるかも時代の流れで、文字の大きさを変えたり、音声で読み上げる機能をつけたものもあります。ちなみに電機は100点満点の41点で84位。